

# 国際研究計画・機関情報

1992年11月

Center for Global Environmental Research

環境庁 国立環境研究所 地球環境研究センター



## 序

地球環境研究センターのひとつの機能は、国内外の地球環境研究者や行政担当者に地球環境に係わるデータや情報を提供することである。どのようなデータ・情報があるのか、どこにあるのか、どのようにすれば入手できるのか、……。この種のデータ・情報に関する情報（情報源情報）も地球環境研究を推進するうえで不可欠のものである。

当センターのデータベース事業の一環として、現在国連機関、国際機関、さらに各国機関・組織が進めている地球規模でのモニタリング計画、研究計画、情報システム開発の実態を調べるために、これらの機関・組織の概要や活動についてのアンケート調査を行った。

本報告書は、この調査結果及び各機関・組織の年報、パンフレット等をもとに、特に、

- (1) 国際的な規模でどのような地球関連の研究計画やモニタリング計画が進んでいるのか、
- (2) それらの計画では、データ・情報はどのように蓄積され、提供されているのか、
- (3) さらに、どこ・誰に手紙を書けばデータが入手できるのか、

を中心に研究計画、機関ごとに整理したものである。今回整理したものは、前述の調査で得た研究計画、機関のうち、ほぼ半数についてであり、なるべく早期に続編を整理する予定である。

平成4年11月

地球環境研究センター

原沢 英夫

# 目次

## 第一部 国際研究計画・機関一別情報

	PAGE		PAGE
BAPMON	3	ICIMOD	42
CASID	4	ICSU	43
CDIAC	5	IGBP	44
CODATA	7	IGCP	45
CORINE	9	IGU	46
ECE	11	IM	47
ECHO	12	IMO	48
EDC	13	IMP	49
EEA	14	INFOCLIMA	50
ELIS	15	INIS	52
ELP	16	IRPTC	53
EMEP	17	ISRIC	55
GAW	18	IUCC	57
GCOS	20	IUPAC	59
GEMS	21	LC	60
GEMS/Air	23	NGDC	61
GEMS/Food	24	NSIDC	63
GEMS/HEAL	25	OECD	64
GEMS/IBM	26	SCOPE	65
GEMS/Water	27	SPREP POL	67
GLIS	28	WCDP	69
GO3OS	29	WCMC	70
GRDC	30	WCP	71
GRID	32	WCP/WATER	72
GRID-Tsukuba	34	WCRP	73
HDGEC	35	WDC	74
HELCOM	37	WEC	75
IAEA	38	WMO	77
ICES	40	WWW	79

## 第二部 国際研究計画・機関一情報一覧

表-1 環境関連の国連機関・国際機関	83
表-2 地球規模の研究・モニタリング計画	85
表-3 地球規模のデータ・情報システム	91
表-4 世界資料センター	94
表-5 略語一覧	99
表-6 データオーダーフォーム	105

## 第一部 国際研究計画・機関個別情報

国際研究計画・機関についての個別情報シートの各項目の持つ意味は以下のとおりである。

名称： 略称（正式名称）  
日本語名： 計画・機関の日本語名（但し定訳ではないことに注意）  
親機関： 計画実施機関・上位機関  
住所： 機関の所在地  
国名： 機関の所在国  
電話： 機関の電話  
FAX番号：機関のFAX番号

1. タイプ： 研究計画・機関のタイプ（国際モニタリング計画、国際学術機関等）
2. 地理的範囲：研究計画・機関がカバーする地理的範囲（世界、アジア、欧州等）
3. 目的： 研究計画・機関の設立趣旨
4. データ管理：研究計画・機関におけるデータ管理についての特徴
5. 協力関係： 他研究計画・機関との協力関係
6. 参考文献： 参考、引用した文献
7. その他： データ入手に関する情報（一部の研究計画・機関のみ）

（注：電話番号等の情報は最新のものをを用いたが、変わる可能性がある。不明な項目は‘――’で示した。）

名称 BAPMoN (Background Air Pollution Monitoring Network)

日本語名 大気バックグラウンド汚染観測網

親機関 GAW

住所 WMO, P.O. Box 2300, CH-1211, Geneva 2

国名 SWITZERLAND

電話 41-22-730-8314

ファックス 41-22-740-1439

---

1. タイプ：国際モニタリング計画

2. 地理的範囲：世界

3. 目的

1968年にWMOの下部組織として設立された。BAPMoNは変化している地球の大気に関する情報を継続的に提供することを目的としている。現在もBAPMoNは唯一バックグラウンドとしての大気汚染をモニタリングするために全球で運用されているシステムである。BAPMoNは全球の観測ネットワークを通して、ベースラインと地域レベルで対流圏、大気組成をモニタリングする。浮遊粒子状物質、CFC、CO<sub>2</sub>、メタンと大気混濁度を主としてモニターする。1987年にBAPMoNは57カ国、196観測地点で運用されている。(当時27地点が準備中であった。)

4. データ管理

ベースラインモニタリングは地域の直接的な影響を最小化し、少なくとも観測時間の60%が相互比較できるデータを提供するために、十分離れた観測地点で実施される。データは長期にわたって収集され、これは大気中の種々の物質の化学的濃度の傾向を決定するために用いられる。雨水化学分析、酸性雨、大気混濁度のデータベースは米国にあり、ロシア(旧ソ連)は太陽放射データを収集している。ドイツとCSFRは実験施設と研修計画を提供する。さらに、日本において温室効果気体データについて気象庁の温暖化情報センターが収集している(World Data Center for Greenhouse Gas, Tokyo 1990.10.1)。

5. 協力関係

BAPMoNは広範囲に他の国際計画 UNEP/GEMS, CMEA (GEMS IBMプログラム) と共同プログラムを実施している。EMEP (Monitoring and Evaluation of the Long-Range Transmission of Air Pollution in Europe) や BAPMoN ネットワークは、UNEP/GEMS に対する大気情報の主要なソースである。同時にいくつかのモニタリング地点と情報を共有することによってEMEPと協力している。

6. 参考文献

HEM, 1990: A Survey of Environmental Monitoring and Information Management Programmes of International Organization.

WMO, 1991: Annual Report, 1990, WMO-No.746, 66 p.